

“安心・安全・安定のガス窯を1から作る(株)大築窯炉工業”の陶芸家と窯屋を結ぶ情報誌

38 窯

窯ナビ

ウラ面も情報満載

必ず良いことがある人のために送る！

DAICHIKUのお得意様向けニュースレター

【発行日】2018年10月31日 【発行人】(株)大築窯炉工業 谷口浩司

〒309-1611 茨城県笠間市笠間 2192-5 TEL0296-72-1444 【ホームページ】<http://www.daichiku.jp/>

■土浦の陶芸教室 ちようど工房 塩谷良太さん



Q：学生時代はどう過ごされましたか？

A：美術大学で陶芸を専攻しました。

Q：いつ、現職に就きましたか？

A：作品を人に見せたい、伝えたいと思い作家になろうと思いました。

Q：現職についてから何かひとつ心に残る出来事を上げるとすると、どんなことがありますか？

A：何度か造形の最中に「目からうろこ」の瞬間がありました。それは、私が制作する上で必要なプロセス上の解釈の仕方が掴めたことでした。アート制作の方法はマニュアル化出来ませんし、言葉での解釈は頭でっかちになりがちです。

Q：その出来事をきっかけにそれ以前と比べて何か変わったことはありますか？

A：物事の見え方が変わりました。既成概念を超えた解釈が出来るようになり、造形の幅が広がりました。以来、労を暇ない制作を楽しく出来ています。

Q：お客様からどのような事を言われると嬉しいですか？

A：自分以外の言葉は何でも興味がありますし、勉強にもなります。

自分がまだ気付けていないことを言われると特に嬉しいです。

Q：最近の嬉しい出来事があれば教えてください。

A：代表作にゴムバンドを使って生地を変形させて有機的な表現をする作品があるのですが、ひよんな失敗から、新たな造形が展開したことです。

Q：あなたのお仕事ぶりをご家族はどうおっしゃっていますか？

A：面白がってくれています。冷静に分析されたりもします。

Q：ご自身の感じる長所、短所を教えてください。

A：長所：ピンと来た事なら何でもやる事。

短所：忘れっぽいこと。

Q：イタリアに昨年から一年、留学されていたそうですね。

A：はい。フィレンツェ国立美術学院で工芸や彫刻を学んできました。

(イタリア留学記は裏面に)

Q：目標ややりたいことは？

A：近年の活動、やったことが何であったかを一旦ことばで理解したい。

それと同時にそのことばが追いつかない所を再度造形して行きたいです。

【塩谷良太さんプロフィール】

1978 東京都生まれ

2003 多摩美術大学美術学部工芸学科陶専攻卒業

2005 筑波大学大学院芸術研究科デザイン専攻総合造形分野終了

2011-2012

平成23年度文化庁新進芸術家海外派遣研修員 イタリア・フィレンツェ国立美術学院

個展、グループ展、イベント・ワークショップ開催多数(詳しくは⇒

<http://www.tamabi.ac.jp>)

論考・論文

2014 制作ノート：分けないでわかるわかり方 多摩美術大学研究紀要第28号

2005 陶造形にみる今日的表現の可能性





震災後、避難されている人々と「別れ」「絆」の証とし、粘土を挟んで握手を交わし出来た形状に彩色、本焼きをし、箸置きとして贈るという「ひとてま」の活動。これをイタリアでも行い、「ARS GRATIA ARTIS」というコンクールで優秀賞を受賞されました。それも「ひとてま」のピースから構成した作品です。あたりまえでは無い環境の中で行った創作活動は、不自由さの中から生まれた発見や、日本とは違う環境に身を置くことで新たな表現の可能性を見出し、造形思考を深める非常に貴重な経験となったようです。「飽くなき探求心で更なる陶造形による自己表現を行いたいと思います。『ひとてま』プロジェクトにおいても日本、世界にメッセージを発信し続けて行きたいです。」と話す塩谷さんです。

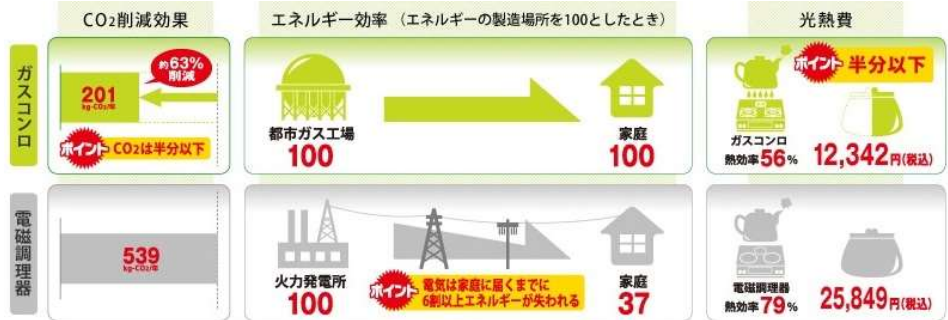
■なるほど！釉陶里炉・学習帳■ガスと電気のエネルギー比較と窯

人間が経済活動をするところには必ずエネルギーが必要になります。そこで私たちに直接関係の深いガスと電気のエネルギー比較をしてみたいと思います。

東京ガスのホームページによると、「IHは燃焼せずCO₂が発生しないので環境によく寄与している・・・というのは大きな誤解です。実際は発電時と送電時のエネルギーロスが大きく、火力発電でCO₂を排出。トータル換算すればガスのほうが省エネでCO₂排出量が低いので、本当に地球のことを考えるならガスコンロ！」と表現しています。

事実、都市ガスはガス管網で工場から各家庭に送られるので送電ロスのようなものはありません。それに相当するのは圧力損失ですが、熱量がダウンするものではないので無視することができます。プロパンガスではボンベの配送エネルギーが必要ですが、1~2か月に何回かです。これまで電気はCO₂を排出しないように考えられてきましたが、実際は火力発電所で排出していますし、送電ロスが63%もあるということも知りませんでした。

しかし、電気は便利なエネルギーであることは間違いありません。



東京ガスホームページより

せん。制御しやすい陶芸用電気窯は初心者や公共施設に人気があります。また素焼きや酸化焼成には威力を発揮します。陶芸活動をするうえで窯やエネルギーを考えないわけにはいきません。それぞれの用途目的に合った窯を選び有効に使用することが求められます。私たちはガス窯の能力を十二分に発揮できるようソフト、ハード両面で充実させることが責務と考えています。日本はエネルギーのない国。エネルギーロスや無駄遣いに気を付けて限りある資源を有効に使うことが重要です。

■陶芸羅針盤 かめのぞきいろ

日本の伝統色には数百ともいえる色が存在します。その中でやきものに関する色というと、青磁色と瓶覗(かめのぞき)色のふたつがあります。青磁色はすぐに想像できますが、この瓶覗色はすぐには想像できません。名前の由来はふたつあり、ひとつは、染色の際、藍瓶に漬けてすぐに引き上げてしまうことから、もう一つは、水瓶に映り込んだ青空の色を表現した、という説があります。前者が一般的だそうですが、私は「水瓶に映り込んだ青空の色」というのに魅力を感じます。日本人の色に対する思いの深さがうかがわれます。私がこの仕事に従事し始めたころ、釉薬の色にまだまだ納得して

いない、という言葉は何人も聞きました。特に益子の柿赤

瓶覗 かめのぞき

#a2d7dd

日本の伝統色
R:162 G:215 B:221
H:186 S:26 B:87
L*:81.66 a*:-24.44 b*:-11.5
C:27% M:3% Y:0% K:13%
色相 明度 彩度

にはこだわりを持った窯元さんも多いようです。自分の思いの色や形で表現するやきもの世界に奥深さを感じずにはいられません。(参考文献：日本の伝統色 浜田信義著 ビエブック

■編集後記 あとかんげん

■岩盤浴をご存知でしょうか？先日、行ってきました。真夏の大汗、これが気持ちいいのです。からだの芯まで温まる感じです。専用着に着替えて、薄暗い部屋の中、湿度はたぶん飽和状態。熱々の石の上に大きなタオルを一枚敷いて、寝転がります。石の温かさがタオルを通じて背中からからだの芯に伝わってくる感じがよくわかります。15~20分経過したら一度外に出て体を冷やし、水分補給、もう一度中へ。その時点ではほとんど汗はかいていません。しかし、そこからがすごい。いつの間にかからだ中、汗だらけです。腹ばいになると内臓に熱がしみわたる感じがします。酷使している胃や腸、肝臓、腎臓にも熱が行く感じです。そこで私は大発見！「これは窯だ！」と。しかも素焼き、湿度乾燥。私は、素焼中の素地になってみました。芯から汗、すなわち水分は出ているが、部屋、炉内に湿度があるので蒸発しません。でも汗は出るので。出た汗が呼び水となってまた汗が出ます。タオルで拭いてもすぐに出てきます。もし、この部屋の湿度が低かったらどうでしょう？出た汗はどんどん乾燥して、肌はサラッとしています。肌は傷んでしまうのではないのでしょうか。汗がどんどん乾燥してカサカサになることでしょうか。粘土でいえば収縮です。素焼を焼くとき、素地の水分はゆっくり抜きます。しかも窯には湿度を持たせるようにします。これは湿度乾燥と呼ばれる方法です。炉内に湿度があると素地の表面と芯に近い場所で水分差が小さくなります。やきものは素地に厚いところと薄いところがあります。薄いところは早く乾き、厚いところはゆっくり乾きます。また表面と内部でも水分差が発生します。これを均一にしてあげて、収縮差をできるだけ少なくしてあげる方法が湿度乾燥です。

